

1. 基本方針

施設に入居されたご利用者が、「その人らしい毎日を」「自宅に居たときと同じような暮らしを」「人生の最期まで、あたりまえの生活を」など、期待に応えられるようケアの原点に戻り、「ご利用者の自己決定の尊重」「残された機能の活用」「生活の継続性が維持される」ことを再度見直し、施設の持つ“安心・安全”の大きな機能を活かしながら、ご利用者と共に暮らしていく。

2. 重点目標

① 「家族との繋がり」を大切にしていく

(家族との繋がりを今後も継続していき、ご家族の方と一緒に、ご利用者の生活を考えていくようにする。)

ア 年1回の誕生日を、ご家族の方と相談し計画を立て、一緒にお祝いできるようお手伝いをさせて頂く。(自宅への外出・外泊、外食、旅行等)

イ 月2回、ご家族の方に手紙や写真等で近況を報告し、自宅でも話題に上るようなお手伝いをさせて頂くと共に家族の絆を深める。

ウ ご家族の方が、居室のしつらえや衣服の管理、手作り料理に関わりを持って頂けるように環境づくりを整備する。

エ ご家族の方も気軽にリビングで休んでいかれるような空間づくりを積極的に進める。

② 生活の質を高め、残された機能を活かし、役割や生きがい・楽しみのお手伝いをする

ア 多少の時間をかけても、自分で行えることを実施して頂くことで、喜びや達成感をあじわって頂き、次への意欲に繋がられるようにする。

イ 「できない」から「できる」へ、視点を転換し、生活行為を介護から支援にかえていく。

ウ 日常生活の中で、役割を持つことにより生きがいや楽しみの時間を持てるようにする。

③ 暮らしを見つめ直していく

ア 在宅での生活、本人のニーズを再アセスし、本来の生活環境で暮らして頂けるようにする。

イ 施設に入居されても、いままでの生活との差を可能な限り小さくすることで、生き活きとした生活の場になるようにする。

ウ プライバシーが尊重され、本人の意思や生活習慣が優先される空間づくりをする。

エ 個別性を表現できる環境を整え、個性を発揮できるようにする。

オ 職員が「もし自分の部屋だったら」「もし自分の家だったら」と想像し、生活に彩りを添える空間づくりを進めていく。

④ より多くの介護を要する方にも充実したケアができるようにする

ア 安全の確保に最大限の配慮をおく。

イ 本人の意思決定にて、口から食べる重要性を分かって頂き、それを継続できるようお手伝いさせて頂く。

ウ その人らしい最期を迎えられることができるように、本人や家族の選択や意思を尊重しきめ細やかなお手伝いをさせて頂く。

エ なじみの職員のケア、音や匂い、ご家族や友人が気兼ねなく面会できる。そして、住み慣れた自分の部屋で最期を迎えられるよう、大切な時間を過ごすお手伝いをさせて頂く。

オ 看護師、栄養士、厨房職員等の協力を得、一つのケアを行っていく。

⑤ 地域との関わりを持つ

ア 趣味を活かし自立支援

(定期的なクラブ活動の時間を設定し、自己決定にて参加できる場を設け、自立支援へのお手伝いをさせて頂く。)

イ 地域交流を支援

(ボランティアや専門的な講師を招き、クラブ活動を展開することで、地域交流も図れ、施設内から施設外へ視点を向けられるようにしていく。)

ウ 外出への支援

(季節ごとのドライブ等を実施することで、四季の移り変わりを感じて頂き、その地域の生活を感じて頂くようにする。また、買い物や外食等も同時に行うことで日常生活にハリが持て、社会参加へのきっかけづくりをしていく。)

エ 施設の開放と交流

(パブリックスペースを地域に解放することで、地域の方々との交流を深める。また、それに伴いゆっくり寛げる空間づくりや、興味がもてる場、繰り返し訪れたいくなるような環境づくりをしていく。)

3 具体的な施策

(1) 各委員会の充実

① 具体的なケアに取り組むため、専門的知識を習得し、委員が中心となり、改善・向上に努める。

ア 口腔ケア委員会

口腔ケアに関するあらゆる方法に取り組み、また、食事に関する環境作り等にも取り組んでいく。

イ 入浴委員会

入浴の意義、また、増床に伴い入居者が増えることから入浴方法等の見直しをしていく。(入浴は職員とのコミュニケーションの一つの場として大切な時間であることを念頭におく。)

ウ 排泄委員会

一人ひとりに合った排泄が快適にできるよう、支援方法を検討し、また、排泄用品(紙おむつ・パット・失禁パンツ等)の選定を見直し、環境整備も検討する。

エ 行事・環境委員会

行事委員会と環境委員会を一緒にすることで、レクリエーションのみではなく、生活を営むうえでの行事を大切に、計画的に行っていく。

オ リスクマネジメント委員会

ケア会議を徹底し、アクシデント発生前に「気づき」ができるよう努め、以てアクシデントを減少させていく。また、アクシデントのマネジメントを行い、介護技術の向上や環境を整備していくよう努める。

カ 家内会議

- ・ 各家での取り組みを家職員で話し合い、統一したケア方針が持てるようにしていく。
- ・ 共通した情報を得、協力・信頼・刺激し合うことで、職員一人ひとりのレベルアップと、ご利用者とともに「家づくり」を行っていく。

キ 家長会議の充実

- ・ リーダーとしての自覚を持ち、常に向上心を持ってケアに取り組む。
- ・ 家職員のまとめ役として、協調性を保ちながら職員を「支持」していく。
- ・ 家長会議の目的を明確にし、お互いに情報交換や悩みの相談が行える場にしていく。
- ・ ケアでの問題点を発掘し、軽減・解消に努めていく

ク 職員会議の充実

- ・ 各家の現況報告や内容の充実を高めるものとする。（家での取り組みや課題等の相談等の場とし、決して伝言の場にはしない）
- ・ 職員のレベルアップのため、心構えと基礎に戻り、また介護技術を再確認していく場としていく。

(2) 家向上委員会

- ① ご利用者中心の生活ケアの提供を目標とし、意識向上・生活支援・食事推進の3つの部門で構成し、常に問題解決とケアの維持向上に努めていく。
- ② ケア等に関する方向性の立案や実施、評価を行い、全職員が取り組めるよう導きだしていく。
- ③ 常に家の向上を目指すため、各委員会のまとめ役とする。

平成21年度 のどかな家事業計画

1. 家目標

ご家族との絆を深めながら、共に和やかに楽しめる生活を目指す。

2. 方針

- (1) 前年度の家目標「寄り添い上手」に加え、一人ひとりが生き生きと生活できるよう、ご利用者の意思を尊重し、ご家族の協力を得ながらコミュニケーションを図る。
- (2) ご家族の方が気軽に立ち寄れるよう、手紙や電話での働きかけを増やし、面会の際はゆっくりとした時間を過ごして頂けるような雰囲気作りに努める。

3. 具体的な計画

- (1) ご家族の方との信頼関係を深め、いつでも気軽に話しかけて頂けるような雰囲気作りに努め、近況報告やアルバム作成などを行う。
- (2) 身体機能や精神の安定を維持する為、ケア会議を充実させ、統一したケアに努める。
- (3) 職員間の意見交換や情報交換を密にし、今までの業務を見直すことで、ご利用者とのコミュニケーションを図る時間を多くとる。

4. 生活面での計画

(1) 食事

- ・ 季節感が味わえる旬のものを、一緒に栽培や収穫し料理やおやつ作りを行う。

(2) 排泄

- ・ 排泄ができる爽快感を失わない為に、トイレ介助や排泄パターンを把握し、負担にならないような清拭等を行う。
- ・ 持てる能力を維持する為、安全に配慮した統一のあるケアを行う。

(3) 入浴

- ・ 安心して、ゆったりと安楽に入って頂く為、一人ひとりに合った入浴方法を見つける。
- ・ 入浴剤だけでなく、時期に合った、柚子や紅葉、さくらなどを浮かべ入浴を楽しんで頂く。

平成21年度 なごみの家事業計画

1. 家目標

ご利用者に寄り添い、共に楽しくなごやかに生活できる家を目指す。

2. 方針

- (1) 前年度同様に、ご家族と多くコミュニケーションを図っていく。また、面会時には最近の様子などを伝えていく。
- (2) 一人ひとりをよく知る。“今”何をしたいかを考えて希望に添えるよう努める。(ご利用者中心のケア)
- (3) 終末ケアに関しては、職員、ご家族の方と共に、一丸となり心を込めた見送りが出来るようにする。(看護職員との連携を密にする)

3. 具体的な計画

- (1) 連絡ノートを活用し、職員同士がもっとご利用者を深く知り、伝えることで、誰もが同じお手伝いをさせて頂けるようにする。
- (2) 1年に1度の誕生日を一人ひとりに合った楽しい思い出を作るため、当人はもとよりご家族の方の希望も取り入れ、心を込めてお祝いをする。
- (3) “今出来ること”を大事にして「今日1日楽しかった」と思ってもらえるように関わっていく。また、ご利用者の“1番いい顔”を写真に残してアルバムを作っていく。
- (4) 家独自のレクや料理などを、前年度目標にしたが、なかなかできなかったため、家内だけにこだわらず、各家と協力しながら行事やレクを楽しんで頂く。また、少しでも空き時間をつくり、寄り添いや優しい声かけなど笑顔で関わっていく。
- (5) 外出、買い物、ドライブなどで気分転換を図る。

4. 生活面の計画

- (1) 食事について
 - ・ 季節感の味わえるものを一緒に作り食べるという前年度の目標がなかなか出来なかったものの、厨房からの出張料理で喜んで頂いたりしたことから、今後も厨房との連携をとり提供していく。
 - ・ ご利用者にあった食事形態で、おいしく、満足できるよう食事を工夫する。
- (2) 排泄について
 - ・ 皮膚トラブルに配慮し、個々に合ったパッド等の使用を随時検討し使用していく。(保湿クリーム使用等)
 - ・ トイレでの排泄が出来る方には出来るだけ爽快感を感じて頂けるよう努めていく。
- (3) 入浴について
 - ・ 個々の状態や希望に合わせ、安全に、気持ちよく入浴して頂けるようにしていく。
 - ・ リラックスできる入浴剤などを活用し気持ちよい入浴を提供する。

平成21年度ゆとりの家事業計画

1. 家目標

ご利用者のニーズに添うことが出来るよう、一人ひとりを知る。また、ご家族の方や地域の方が何度も足を運びたくなるような空間づくりや人づくりを目指す。

2. 方針

ご利用者一人ひとりの暮らしにおいて、より良いお手伝いをさせて頂くため、耳を傾け、ゆったりとした雰囲気の中で生活を共にする。

3. 具体的計画

- ・ 寄り添うための時間を無理して作るのではなく、日頃あらゆる場面で、一つひとつの関わりを大切にし、その関わりの中から、何をしたいのか、どんな事を望んでいるのかを知り、お手伝いさせて頂きながら、その思いを尊重し信頼関係を深めていく。
- ・ ご家族の方が施設に対して垣根を持つことのないよう、手紙や電話で連絡を密にし、誕生会や行事等に参加して頂く。面会時は、積極的にご家族の方とコミュニケーションを図り、近況報告や思いを伝えられるよう努力する。
- ・ ご利用者のために、常にご家族の方との連絡を密にし橋渡し役に努める。

4. 生活面の計画

(1) 食事

旬の食材を利用し、五感で楽しめる食事やおやつを一緒に作り、食べることで生活感を感じて頂く。

また、本人に合った食事形態や嚥下しやすい姿勢を見出し、美味しく安全に食事が出来るように努める。

(2) 排泄

トイレ、居室の消臭対策、環境の整備とプライバシーや安全に配慮した支援をする。また、個人の衛生にも努める。

(3) 入浴

ゆったりと安全に入浴して頂けるよう、個々に合った介助技術を身につけ、統一した支援を出来るようにする。また、体調変化に合わせ柔軟に対応し、負担がかからないように努める。他の家との連絡調整も密にし安心して入浴して頂けるよう努める。

(4) 生活

生活にメリハリを付けられるように、レクリエーションや趣味等を多く取り入れることで、生き生きとした生活を送って頂けるようお手伝いさせて頂く。

平成21年度 ほほえみの家事業計画

1. 家目標

ご利用者一人ひとりの生活を大切にするため、思いを込めて接することで、本来の笑顔で生き活きと輝いた生活を送れるようにお手伝いさせて頂く。

2. 方針

丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築き、居心地良く過ごして頂けるような雰囲気作りをすると共に、その人らしさを引き出せるように努める。

3. 具体的な計画

- (1) 誕生会には、ご家族の方と連絡を密に取り、一緒にお祝いをすることで、思い出に残る誕生会にする。
- (2) ホームの行事には、面会時や家族への手紙によりお知らせし、楽しい時間を過ごして頂く。
- (3) ご家族の方に日常の様子をお知らせすることで、絆を継続して頂く。
- (4) レクリエーションの参加や、他の家と協力してドライブに出掛けるなど、交流を深め、楽しく季節を感じながら生活して頂く。また、他職種やご家族の方の協力を得、外出できるような環境づくりをする。
- (5) コミュニケーションを図り、ご家族の方にも気軽に話しかけてもらえるような雰囲気作りをし、ご家族の方のニーズも把握し、少しでも実現できるように工夫する。

4. 生活面について

(1) 食事について

- ① 意思を尊重しつつ食事形態や量を重視すると共に、食べ易い姿勢やペースを知ることで美味しく食べて頂き満足して頂けるようお手伝いをさせて頂く。
- ② 健康状態を保てるように、看護職員・厨房職員との連絡を密にする。
- ③ 口腔内の観察をすることで、口腔ケア・口腔マッサージを行い食べる意欲を引き出す。

(2) 排泄面について

- ① 常に皮膚の状態を把握し、個々に合ったパットを使用、皮膚トラブルを防ぐ。
- ② 排泄の訴えを見逃さずに排泄介助のお手伝いをさせて頂く。
- ③ 排泄チェックの確認を行い、身体の状態を把握し、且つ健康状態を保てるようお手伝いさせて頂く。
- ④ 排泄交換時にスキんシップを図ることで、機能低下や身体の拘縮を予防する。

(3) 入浴面について

- ① 体調や希望に沿った入浴方法で、安全に気持ちよく入浴して頂く。
- ② 入浴剤を使用し、リラックスしながら入浴して頂く。
- ③ 保湿クリームを使用し、皮膚の保湿に努める。

1. 家目標

「一人ひとりの笑顔を大切にしていこう」

2. 方針

思いを汲み取り、思わず笑顔がこぼれてしまうような居心地の良い家づくりを目指す。

3. 具体的計画

(1) 誕生会の充実

ご家族の方との絆を深める努力をする。

(2) ケア会議の充実

個性を見出しお手伝いする努力を惜しまない。

(3) ニーズに応える（声にならない声に耳を傾ける）

意思表示の困難な方のちょっとした兆候も見逃すことなく最期まで悔いのないお手伝いができるようなチームワークを目指す。

4. 生活面での計画

(1) 生活について

- ① 嗜好にあった生活環境を整え季節感と癒しを兼ねた空間作りを工夫する。
- ② 優しい声掛けと笑顔で接し、安心して過ごして頂けるよう心がける。
- ③ 四季折々の季節感を感じて頂けるようドライブを計画し、リフレッシュして頂く。
- ④ 外気浴・レクリエーションなどに参加し、家内で楽しめる遊びなども盛り込みコミュニケーションを図っていく。また、ご利用者の趣味を活かせるようお手伝いさせて頂くと共に、ユニット間の交流も深めていく。
- ⑤ ご家族の方や訪問者との交流を大切にしながら楽しめる時間をつくる。

(2) 食事について

- ① 瀬戸物の食器を使用して頂くことで、ぬくもりや季節感を感じて頂き、目でも味わって頂く。
- ② 誕生会には厨房等で準備して頂いたケーキに、誕生者と家族と一緒に飾り付けをして楽しむ時間を作る。
- ③ 口から食べることの楽しみを失わないよう、形態の見直しや安全に努める。

(3) 排泄について

- ① 排泄パターンを把握し、個々に合った排泄用品の使用と皮膚トラブルの防止に努める。排泄による爽快感を感じて頂けるよう、トイレでの排泄を試みると共に自力で排泄行為が出来るようお手伝いさせて頂く。

(4) 入浴について

- ① ご家庭での入浴により近づけられるよう個別浴を充実させると共に、入浴方法の工夫と改善を行い、入浴剤も併用しながらゆったりと温まって頂き、また、満足して頂けるよう努める。

平成21年度 ぬくもりの家事業計画

1. 家目標

- (1) 個々の生活を大切にするため、ご家族の方との関わりを密にし、情報の共有化を図り、安心して暮らせるようお手伝いをさせて頂く。
- (2) 居室の環境整備に努める。

2. 方針

- (1) 個々の生活パターンを把握し、コミュニケーションを図りながら信頼関係を深める。
- (2) ご家族の方が気軽に立ち寄れるような雰囲気・環境づくりに努める。

3. 具体的な計画

- (1) 誕生会 ご家族の方の意向も尊重し、出来るだけ参加して頂けるよう働きかける
(ご利用者やご家族の方、スタッフとの交流を持てるようにする)
- (2) 行事 地域や地区、ご家族の皆さんに行事に参加して頂ける環境づくり。
(夏祭り、敬老会、団子さし、そば打ち等への案内)
- (3) 生活
 - ① 日常の生活状況がご家族の皆さんにも目で見てわかるよう、普段の生活の様子を写真で記録し、コメントなどを添えて生活記録としてアルバムに残す。また、写真カレンダーを作成(2ヶ月ごと)し、ご家族の方へ表情を伝えて行きます。
 - ② 少しでも多く関わり、心と耳から(カセットテープによる昔話、歌等)身体を刺激し、生き活きとした生活が営めるよう寄り添って行きます。

4. 生活面の計画

- (1) 生活
 - ① 生活が生き活きとしたものになるようなレクリエーションや行事を展開していく。(散歩やミニレクリエーション、ミニ菜園作り等を行い生活にメリハリをつける)
 - ② 四季を感じて頂けるよう、ミニドライブ等で気分転換を図る。
- (2) 食事
 - ① 美味しく、楽しく食べて頂く為に、季節を感じられる手作りの料理やおやつなどを一緒に作り味わって頂く。(旬の食材を使つての昔ながらの料理やおやつ作り等)
 - ② 個々のニーズにあった食事を提供できるようにする。(栄養士、厨房スタッフを交え食事に関する情報交換)
 - ③ 出張料理で、一緒に作りながら目でも楽しみ、より家庭的な雰囲気を楽しむ
- (3) 排泄
 - ① 排泄パターンを把握し、個々に合ったパットまたはオムツなど使用し状況に応じて柔軟に対応できるようにする。
- (4) 入浴
 - ① 個々の身体や健康状態に考慮した入浴方法の検討と実施。
 - ② 入浴剤や季節を感じることでできる入浴(菖蒲湯、ゆず湯等)

平成21年度 くつろぎの家事業計画

1. 家目標

安らげる環境づくり、個々の生活が満足して頂けるお手伝いをさせて頂く。また、ご家族の方とのコミュニケーションをより一層密にし、寛げる雰囲気の家づくりをする。

2. 方針

- (1) 個々の状態を十分に把握し、家全体で同じ支援をする。
- (2) ご家族の方とのコミュニケーションを図り現在の生活状況を報告する。
- (3) ご家族・お知り合いの方が来易い雰囲気づくりを心がける。

3. 具体的な計画

(1) 誕生会

希望のメニューを取り入れ、ご家族の方にも声掛け思い出に残るような工夫を行い、家全体でお祝いをする（家で一品料理等つくる）

(2) 行事

色々な行事に、ご家族の方にも呼びかけ、喜んで頂けるよう声掛けを積極的に行う。（家内の行事時にも声を掛ける）

(3) ドライブ

- ・ 季節・天気のよい時に、ご自宅やその周辺をドライブする。
- ・ 家全員で、また、交流も兼ね西棟合同でドライブをする。
- ・ 飯館の季節を五感で感じて頂けるような工夫を凝らしたドライブを検討する。

(4) 家（ユニット）で料理

食べたいものを一緒に作るにより「作る」ことの楽しさを味わって頂く。
また、料理をすることにより、「皆で同じものを作った」という達成感を味わって頂く。

4. 生活面

(1) 食事面について

- ① 季節の野菜や山菜を調理し、飯館の季節感を味わって頂く。
- ② 個々にあった食事時間に召し上がって頂く事により「食」への楽しさを感じて頂く。
- ③ 個々にあった時間に食前体操をし、唾液の流出を促し咀嚼力を高める。

(2) 排泄面について

- ① 個々にあったパッドを検討し使用する。
- ② 排泄をすることの爽快感を感じて頂く。

(3) 入浴面について

- ① ご希望に添えるような、個々にあった入浴をして頂く。
- ② 入浴剤・季節の物（菖蒲・ゆず）を利用しゆったりと入浴して頂く。

平成21年度 やすらぎの家事業計画

1. 家目標

本人・ご家族の方との信頼関係の構築を大切にし、維持していくことにより、安心してご利用頂ける家をつくる。

2. 方針

優しく・親切・丁寧な対応に心がけ、不安や不愉快な想い、不信感、誤解を招くことのないように十分注意し、安心してご利用頂けるようにする。また、在宅生活の継続を意識したケアに重点を置く。

3. 具体的計画

- ・ 各担当職の参加協力を頂き、利用前のケア会議の充実を図る。在宅生活の状況や身体状況の把握、利用にあたってのご利用者やご家族の「思い」を十分考慮し、メンタルケアを含めて日々のケアに繋げる。
- ・ 「お客様」・「家族」を意識した接し方を心がける。温かみのあるやさしい言葉使いや、気付きによる思いやりの声かけ、時には寄り添い、時には尊敬・傾聴することで、安心して生活していただけるよう努める。
- ・ 「申し送り」の重要性を認識し、記録・伝達・確認を繰り返しながら、職員間の連携を密にし、情報交換により利用期間中の日々のケアと在宅生活の継続に繋げる。
- ・ 「ショートステイ利用時準備物確認表」に家族からの要望や自宅での様子などを記入して頂く。退居時には利用中の様子を記入し、ご家族との繋がりを密にする。また、荷物の紛失・返却忘れのないように、荷物に名前の明記と、持参枚数を記入して頂くことをご理解頂くと共に、受け入れ時の確認を強化する。問題が生じた際は、上司への報告と、ご家族への連絡を速やかに行いご理解頂くようにする。
- ・ 送迎時の家族とのコミュニケーションは信頼関係を築くためにはとても重要である。ショートステイ担当職員でご利用者の送迎を行うことで、『顔がわかる安心感』を感じて頂きたい。また、ご利用者の飾らない普段の生活の様子が感じとれることも、ケアに生かすことに繋がると思われる。

4. 生活面の計画

(1) 生活について

- ・ 家庭での生活習慣を出来るだけ変えることなく、ご利用者に合ったケアを心がける。
- ・ コミュニケーションを多くとり、ご利用者の心身の変化を見逃さない。
- ・ 過ごしやすい生活空間をつくる。(入居される居室やトイレの向き、テーブルの位置や高さ、テレビの場所等を配慮する)
- ・ 環境の変化に伴うご利用者のメンタルケアを常に検討して行く。

(2) 食事について

- ・ 食べることは楽しみの一つである。美味しく食べやすいような食形態と嫌いな物を別品に変えるなど、ご利用者に合った食事を提供することにより楽しく、美味しく食べて頂くよう検討する。
- ・ 季節感を感じて頂けるように、季節に合ったおやつ作りや、介護職員と一緒に作る過程を楽しむと共に食べる意欲を促す。

(3) 排泄について

- ・ 在宅と同じ排泄介助を基本とするが、ご利用者のご家族の精神的ストレスや、介護負担等を軽減するための改善策があるような場合は、提案や助言を行えるように考慮する。
- ・ プライバシーを守り、ストレスにならないように注意する。
- ・ 一時的な生活環境の変化に伴い、便秘になられるご利用者さんの排泄状況を把握し、看護職員と連携して体調管理に努める。

(4) 入浴について

- ・ 身体状況や、ご希望に配慮して、個浴・機械浴を選択し、気持ち良くリラックスして、ゆっくりと安全に入浴して頂く。
- ・ 他のサービスとの情報交換を行い、入浴日・入浴回数の柔軟な対応を心がける。
(職員の都合にしない)
- ・ 自宅のお風呂のように、好きな入浴剤等を使用し、心身ともにリラックスされるように配慮する。また、季節感のある野草や、リラックス効果の高い柑橘系の果物を入浴時に使用し、楽しんで頂く。